

墟構 街 —Re.VIVAL—

東京都足立区千住元町



齋藤 耕次
建築設計計画研究室



人口減少と言われている中、再開発でタワーマンションや建売住宅ばかり建てている現状に違和感を持った。元からあった街を根こそぎ一掃して新しい街を作り続けるのはその土地特有の街並みが無くなり均質化してしまうのではないかと。利益を優先すれば正しい事なのかもしれないが、少しは違った街の生かし方はないのだろうか？無駄と思われる事こそ今後の街には必要ではないか？

そこで、空き家が増え続ける古い住宅街のノスタルジックな雰囲気や人が住んでいた跡形などが断片的に残る非日常的な街の再生があったら面白いのではないかと思ひ、廃墟や空家が点在する足立区千住の未来を仮定した。その場所で廃墟化していく住宅や住宅基礎などの遺構を生かした街づくり会社によって再生される虚構の街を設計した。

当計画は今後の人口減少による空家増加地域の新たな街づくりとしての提案である。

○運営システム

墟構街を統一する会社

- ・ワークスペース運営部
- ・農園運営部
- ・契約食堂運営部
- ・統一会社との借家契約を結ぶ SOHO・2階住人
- ・工房運営部
- ・ゲストハウス運営部

○運営ルール

- 一つ目、接道している建物は1階を改修し、別の用途に転用する事が出来る。
- 二つ目、周囲を住宅などで囲まれている場合、災害時危険なので、上物を解体し基礎のみを残し遺構または火災時の延焼防止スペースとする。
- 三つ目、既存建物を解体する時はその建物の基礎などの断片を残す。

○設計内容

- ・既存建物の1階を改修、オフィスなどに転用、2階の古い外観を残し内装を改修して住宅として再用する 1/2 公共化
- ・古家を SOHO やカフェ、ゲストハウスに転用する空家改修
- ・上物を解体または一部残し、基礎のみを残して生活の断片を伝える遺構農園、基礎遺構、遺構花壇、スケルトン遺構、とする解体遺構化
- ・古家2棟を解体し一部基礎をテラスなどに転用、1棟の新築を建てる遺構新築
- ・廃墟化した建物が自然に飲まれて行く姿を表わすシンボルマーク的な管理廃墟



遺構農園



遺構新築



遺構花壇



スケルトン遺構



1階平面図・配置図